

濡れ時間を指標としたかび毒蓄積リスクの評価

技術の特徴

- ・赤かび病感染後の濡れ時間が150時間を超すと、濡れ時間に比例してかび毒が蓄積することを明らかにしました。
- ・雨による濡れだけでなく、結露による濡れもかび毒の蓄積に寄与します。
- ・濡れ時間と湿度82%以上の時間はほぼ等しく、測定が容易な湿度から濡れ時間を推定できる可能性を示しました。

研究の内容

- ・かび毒の蓄積と濡れ時間との関係を明らかにするため、圃場および散水ハウスで赤かび病菌の接種試験を行いました。
- ・濡れ時間を簡易に測定出来るようにするため、気象要素と比較観測を行いました。

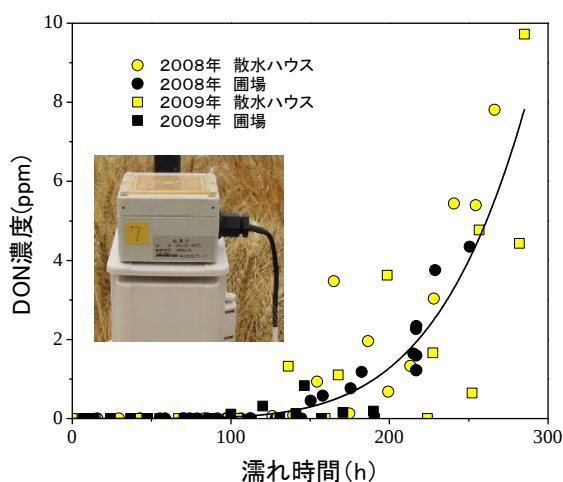


図1. 感染後の濡れ時間とDON濃度との関係

濡れ時間は結露計で測定(図中の写真)
散水ハウスでは16時から24時まで1時間毎に1分間散水
圃場では人為的な散水はせず

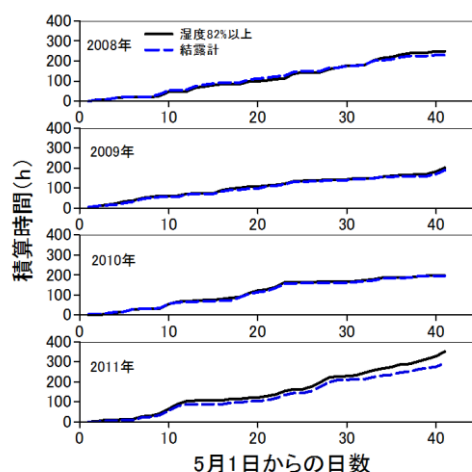


図2. 濡れ時間と湿度82%以上の時間

近農研(福山)のデータ
濡れ時間は結露計で測定
5月1日を起点に積算

今後の展開

「かび毒汚染低減のための指針、技術情報(農林水産省)」等に反映し、かび毒汚染の低減に活用する。

濡れ時間を指標とした追加防除要否判定技術を確立する必要があります。

参 考

黒瀬義孝. (2014) 日本植物病理学会報 80:115-118.